

鋼橋技術研究会

橋梁美化研究部会

平成2・3年度活動報告書

平成3年11月

## はじめに

国が豊かになるにつれて人は環境についてもアメニティーを求める様になる。橋もその例にもれず、近来、建造される橋に対しては可成り美観を考慮する様になった事は喜ばしい。

戦後の復興に続き、多くの橋を建造した事は、美観は兎も角として、経済成長の為、また、国民の便利の為に大いに役に立ち、高く評価されてよいと考えられる。その頃は未だ国民も生活環境にまで充分気を配るゆとりがなかったし、構造物の外観も周囲の景観に比べて別段、遜色は見られなかった。しかし周辺の景観が整備されるにつれて寿命の長い橋など既存の構造物の景観は取り残され、見劣りする様になって来た。

構造物の強度や機能について設計理論や施工技術の不足、また、予想を越える車両の荷重や頻度の増加の影響などにより、当時、建造された橋梁には種々、損傷が生じて来たが、これに対しては多くの場合、構造物を交換するのではなく、補修や補強を施して、立派にその機能を持続して来た。構造物の景観についても整形手術を始めとして化粧や衣装によって見違える様に美しくする事は可能で、われわれはこれを「橋の修景」と呼ぶことにしているが、既にその様な例は少なからず見る事ができる。

新たに建造する橋の美観に関しては多くの研究があり、比較的、自由に設計を行うことが出来るけれども、既存の橋の美化は構造的な制約や供用中ゆえの作業上の制約などがあり、ある意味では新設の場合よりも遙かに多くの工夫や労力を要する事がある。

そこで鋼橋技術委員会においても主として既設の橋梁の美化の問題を取り上げることとし、研究部会を設けて2年間にわたり、研究を行なって来た。ここに、その成果を報告書に纏めたが、この特定課題に参加し、鋭意研究に協力賜った部会のメンバー各位及び種々、便宜を図って下さった首都高速道路公団ならびに名古屋高速道路公社に深く感謝の意を表す。

1991年11月

鋼橋技術研究会

橋梁美化研究部会

部会長 阿部英彦